

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名	スポーツ・文化振興奨励事業		担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成14年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援		市民協働	
予算科目コード	01-100401-17 単独	根拠法令・条例等	守谷市スポーツ・文化振興奨励金交付要綱		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>スポーツ・文化に親しみ、県代表として全国大会等に出場する市民を奨励し、出場に係る経費の負担軽減を図るため、平成14年度に奨励金交付制度を設けた。</p>	<p>「守谷市スポーツ・文化振興奨励金交付要綱」に基づき、スポーツ又は文化で全国大会出場等の功績をあげた個人又は団体に対して記念品と奨励金を交付し、榮譽を讃え、今後、市のスポーツ及び文化の振興と発展に寄与してもらおう。</p>
<p>目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）</p> <p>スポーツ及び文化の振興を図り、市民の健康づくりと文化意識の高揚に寄与する。</p>	
<p>（参考）基本事業の目指す姿</p>	
<p>市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
広報に掲載することにより、幅広い方々に周知され、情報を得ることができる。（将来有望な選手の発掘情報としても活用される。）	広報に掲載することにより、幅広い方々に周知、情報発信をする。（将来有望な選手の発掘情報としても活用される。）

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
交付者数（スポーツ）（人）	66.00	105.00	73.00	75.00	75.00
交付者数（文化）（人）	0.00	1.00	4.00	5.00	5.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	功績等に対し奨励金を交付することが目的なので、成果にはばらつきがある。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	スポーツ・文化に親しむ市民が増え、将来有望な選手の育成につながる。今後も、継続して功績をあげた市民の榮譽を讃え、市のスポーツ及び文化の振興と発展に寄与してもらおう。				

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	1,932	1,495	998	1,668	1,668
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,932	1,495	998	1,668	1,668
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	122.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	500	0	0
トータルコスト		1,932	1,495	1,498	1,668	1,668

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	スポーツ推進委員活動事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和39年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	法定+任意
	基本事業	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援	市民協働	企画立案への参画
予算科目コード	01-100501-02 単独	根拠法令・条例等	スポーツ基本法 守谷市スポーツ推進委員規則	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>国の施策として必置制とされ、住民に対するスポーツの実技指導やスポーツに関する指導助言を行う役割を担う守谷市体育指導委員を昭和39年度から設置した。</p> <p>平成23年8月に施行されたスポーツ基本法により、名称や役割が改められ、スポーツ推進委員として、市のスポーツ振興事業への参画推進、スポーツ振興に関する地域住民と行政とのコーディネータ役を担っている。</p>	<p>毎月の定例会により、スポーツ事業に関する予算や前年度事業の参加者等の分析を行い、次年度の事業計画立案に生かす。</p> <p>また、スポーツ研修会等で得た技能を、スポーツフェスティバルなどで市民に紹介する。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>地域住民のスポーツに対する欲求を把握し、行政とスポーツ振興の具体策を企画・立案・運営するとともに、地域住民に対して熱意をもってスポーツ・レクリエーションの指導等を行う。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
<ul style="list-style-type: none"> ・若年層の人材発掘 ・スポーツを「する」、「見る」機会の紹介 ・スポーツフェスティバルなど幅広い年齢層を対象としたイベントで、普段スポーツをしない人に興味を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、若年層の人材を発掘することができなかった。 ・スポーツを「する」、「みる」機会として、スポーツフェスティバルでラグビーを取り入れた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
会議参加者数（人）	68.00	72.00	80.00	100.00	100.00
研修会・講習会参加者数（人）	19.00	32.00	29.00	30.00	30.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	自治会からの要請でニュースポーツの指導をできたことが、スポーツ推進委員にとって意義ある活動となった。 今後も、スポーツの指導を継続するほか、多くの市民がスポーツに親しむ機会や場の情報提供を行う。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	スポーツ推進委員は、できる限り若年層を確保し、世代交代を図っていく必要がある。 現在は、会議や講習会等が活動の中心となっているが、地域のスポーツ指導などにも力を入れる必要がある。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	560	736	1,015	750	850
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	47	84	120	120
	一般財源	560	689	931	630	730
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	354.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	1,451	0	0
トータルコスト		560	736	2,466	750	850

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名	市体育協会補助事業		担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和43年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援		市民協働	補助事業
予算科目コード	01-100501-04 単独	根拠法令・条例等			

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>市民がスポーツに親しむことができ、技術の向上、健康増進と地域の親睦・融和を図るための組織として、昭和43年に「守谷市体育協会」が設立され、補助を開始した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金を交付し、各種スポーツ大会、技術講習会等の体育協会の活動を助成する。 ・市民がスポーツ活動に参加することにより体力の向上及び健康増進を図るとともに、体育協会及び加盟団体の組織強化を支援する。
<p>目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）</p> <p>市民の健康増進と体力向上のため、各種運動競技の普及発展と競技力向上を目的に活動する体育協会の自主的な事業を支援し、市民交流とスポーツ活動の推進を図る。 また、市が主催するスポーツ大会やイベントへの協力などの積極的参画にも期待する。</p>	
<p>（参考）基本事業の目指す姿</p> <p>市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
体育協会会員をいかに増やしていくか。 加盟していない競技団体に対し、阻害要素の調査等を実施し、新規加盟への促進を図る。	体育協会会員や加盟団体増加のため、加盟していない競技団体への意向調査、新規加盟を予定している団体へのヒアリングを行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
体協会員数（人）	1,734.00	1,777.00	1,848.00	1,875.00	1,900.00
体協主催事業参加者数（人）	8,000.00	8,000.00	8,000.00	8,000.00	8,000.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	スポーツを通じて多方面へ貢献している。市のイベントへの協力も得られた。部会（競技種目が）が1つ増えることに決定した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	加盟することによるメリットが明確にできれば、加盟団体が増え、大会・講習会開催の成果向上も見込める。				

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	1,600	1,600	1,600	1,600	1,800
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,600	1,600	1,600	1,600	1,800
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	604.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	2,476	0	0
トータルコスト		1,600	1,600	4,076	1,600	1,800

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	市スポーツ少年団補助事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和61年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意的事務
	基本事業	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-100501-05 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>青少年の健全育成と少年期におけるスポーツの楽しさを教えるため、昭和61年に「守谷市スポーツ少年団本部」が設立され、補助を開始した。</p>	<p>補助金を交付し、スポーツ少年団が主催する、各種スポーツ大会、技術講習会等開催費を助成する。 守谷市の代表として出場する県大会・関東大会・全国大会等遠征費を助成する。</p>
<p>目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）</p> <p>各種運動競技の普及・発展、競技力向上と各少年団間の交流を目的に活動するスポーツ少年団本部の自主的な事業を支援し、青少年健全育成と児童の体力向上に寄与する。</p>	
<p>（参考）基本事業の目指す姿</p> <p>市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>改善内容（課題解決に向けた解決策）</p>	
<p>次年度のコストの方向性（→その理由）</p> <p><input type="checkbox"/>増加 <input type="checkbox"/>維持 <input type="checkbox"/>削減</p>	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団だよりの発刊により、入団のきっかけづくりをする。 ・会議を実施し、団の実態を把握して必要なサポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団だよりを発刊し、各学校に配布した。 ・守谷市スポーツ少年団創立30周年記念誌を発刊した。 ・会議を開催し、練習場確保・試合場確保に関する意見や要望を可能な範囲で反映した。 ・スポーツ少年団大会助成金交付基準を改訂し、正当な額を助成するようになった。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
市内のスポーツ少年団数（団体）	27.00	27.00	0.00	0.00	0.00
団員数（人）	636.00	693.00	685.00	690.00	700.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	少年の健全育成を第一に考え、スポーツの振興を図ることを目的として、各競技の専門部会がスポーツ少年団活動を円滑に進めているため、成果向上の余地はない。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	事務局（市）と各専門部会で円滑な運営を行っている。今後も維持をしていく。				

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	600	2,490	1,802	2,522	2,522
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	600	2,490	1,802	2,522	2,522
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	401.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	1,644	0	0
トータルコスト		600	2,490	3,446	2,522	2,522

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	各種スポーツ大会開催事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成15年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援	市民協働	共催
予算科目コード	01-100501-07 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>スポーツ基本法（旧スポーツ振興法）に定められている地方公共団体の責務として、市が独自にスポーツ大会を開催し、スポーツ競技の進行を図る。</p>	<p>毎年5月上旬から翌年1月下旬にかけて、バドミントン・テニス・グラウンドゴルフ・バレーボール・卓球・軟式野球・ソフトボール・ソフトテニス・バスケットボールの9種目を開催している。 参加者は、市内在住者・在勤者・在学者又は守谷市体育協会登録チームを対象としている。</p>
<p>目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中でのスポーツとの関わりを市民に再認識してもらう。 ・大会に参加することで、市民の日頃のスポーツ活動の意識を高める。 	
<p>（参考）基本事業の目指す姿</p> <p>市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>改善内容（課題解決に向けた解決策）</p>	
<p>次年度のコストの方向性（→その理由）</p> <p><input type="checkbox"/>増加 <input type="checkbox"/>維持 <input type="checkbox"/>削減</p>	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
<ul style="list-style-type: none"> ・大会PRの強化 ・競技者同士の交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのチラシ・市HPに加え、今年度はSNSを活用して大会PRを行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
大会数（大会）	9.00	9.00	9.00	9.00	9.00
参加者数（人）	1,410.00	1,315.00	1,335.00	1,350.00	1,370.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	大会種目数が横ばいの状況にあるため、成果は停滞している。 幅広い年代が参加する種目（バドミントン・卓球・ソフトテニス等）では世代間交流が図られ、市民のスポーツ活動の成果及び市民交流の成果の向上が期待される。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	成果が上がり、大会開催について市民から問合せがくるほどの事業となっているため、今後もスポーツの場を市民に提供すべく、維持していく。				

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	767	703	658	797	797
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	539	477	531	528	528
	一般財源	228	226	127	269	269
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	378.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	1,550	0	0
トータルコスト		767	703	2,208	797	797

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	中学生富士登山事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和61年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援	市民協働	事業協力
予算科目コード	01-100501-10 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>中学生という多感な時期に、日本最高峰の富士登山にチャレンジすることで、青少年の健全育成とスポーツ振興を図るため、昭和61年度から実施している。</p>	<p>市内在住の中学生と指導者が、15人ほどの班を作り協力し合いながら、1泊2日で富士山頂を目指す。 [実施日] 7月28日（木）・29日（金） [対象者] 市内在住の中学生90名 [指導者] 市体育協会，市スポーツ推進委員，市内中学校教員，市職員等31名</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>中学生が日本最高峰である富士山を登山することにより、自然のすばらしさを知り、仲間と協力し合うことの大切さを学ぶ。また、団体行動を通して、社会の一員としての自覚を養う。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
旅行業者への委託により、宿泊場所や食事場所の手配がなくなり、これらに係る事務の軽減につながった。	今年度からは、旅行業務に加え安全な登山が実施できるよう、現地の登山ガイド3名を依頼し、登山中の緊急時における山小屋との対応が迅速に図れるようにした。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
参加者数（人）	124.00	97.00	100.00	120.00	120.00
登頂に成功した人数（人）	116.00	90.00	99.00	110.00	110.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	旅行業務を委託したことにより事務量が軽減された。 また、参加者が安全に事業に参加できるよう、登山ガイドを配置したことにより、引率者の負担軽減も図られた。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	守谷市として31回の実施となった。国の施策において、社会教育・学校教育の両面から子どもの体験活動の推進が求められる中、富士登山を通して、感動したり、驚いたりしながら考えを深め、実際の生活や社会、自然の在り方を学んでいく機会を提供する事業である。 今後も、子どもたちの成長の糧であり、「生きる力」をはぐくむ基礎となる体験活動として、事業の実施を継続していく。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	2,599	1,064	1,195	1,341	1,341
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,488	0	0	0	0
	一般財源	1,111	1,064	1,195	1,341	1,341
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	461.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	1,890	0	0
トータルコスト		2,599	1,064	3,085	1,341	1,341

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	国民体育大会開催事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成25年度～平成31年度
	施策	生涯学習の推進	種別	任意的事務
	基本事業	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援	市民協働	実行委員会
予算科目コード	01-100501-11 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>平成31年度の第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」ハンドボール競技会を広く周知し、円滑に運営する必要があるため、共同開催地となる守谷市・常総市・坂東市が、平成25年度から開催年度（平成31年度）まで継続して国体開催に係る経費を負担することにより、大会運営を支援・推進する。</p>	<p>守谷市・常総市・坂東市が国民体育大会開催に係る3市合同の事務局を設置し、実行委員会の運営、リハーサル大会及び本国体の広報・啓発、競技用具の整備、競技役員配置、式典、市民協働、歓迎、おもてなし、宿泊・輸送などの業務を行う。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>平成31年度の第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」開催の準備を進めるため、守谷市・常総市・坂東市がハンドボール競技共同開催地として必要な事業を行い、ハンドボール競技の普及とスポーツの振興に寄与するとともに、市民一人ひとりが国体に参加する機運を高め、市全体で国体を盛り上げ、協働のまちづくりの推進につなげる。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
ハンドボール競技開催地として、スポーツ少年団及び県ハンドボール協会と共催で「ハンドボール教室」を実施するなど、ハンドボール競技の魅力や特徴のPRをする。	常総市・坂東市との共同開催に向けて実行委員会を設立した。組織運営を円滑に行うため、3市職員による事務局を設置した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
国体PRイベントの数（件）	0.00	0.00	40.00	40.00	0.00
国体関係事業に携わった市民の数（人）	0.00	0.00	454.00	1,000.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	3市共同事業として年次積立を行うことで国体開催年に掛かる経費を抑えることにつながり、事務局運営の成果は向上している。 今後は国体ボランティアを募集するなど、市民が活躍できる場を提供することで、国体に参画する市民が増やし、さらなる成果の向上を図る。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	開催地として大会を盛り上げるとともに、市民に、全国レベルの大会を観戦する機会と大会運営や市民運動に携わる機会を提供する。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	1,000	3,000	10,011	15,000	23,223
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,000	3,000	10,011	15,000	23,223
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	3,507.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	14,379	0	0
トータルコスト		1,000	3,000	24,390	15,000	23,223

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	学校体育施設開放事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和55年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援	市民協働	その他
予算科目コード	01-100502-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市立学校体育施設開放条例 守谷市立学校体育施設開放条例施行規則	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
守谷市には市営体育館がなく、学校施設のみのため、市民のスポーツ活動等の場所として昭和55年度から提供している。	市民のスポーツ・レクリエーション活動及び体力づくりの場として学校体育館やグラウンドを学校教育に支障のない範囲で開放している。 。半年ずつ使用更新する定期使用と、随時受付する臨時使用があるが、使用に当たっては事前登録申請が必要である。開放場所及び時間は小学校体育館（平日／19：00～22：00、土日祝／9：00～22：00）、小学校グラウンド（土日祝／9：00～17：00）、中学校体育館・格技場・卓球場（平日土日祝／19：00～22：00）。ただし、郷州小学校体育館は21時までの使用としている。 平成19年度から、子どもを主体としている団体以外は使用料を有料としている。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民がスポーツをすることで、市民の健康増進を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
<ul style="list-style-type: none"> 施設使用時のルールの確認 利用者同士の連絡，調整及びコミュニケーションを図る。 スポーツ・レクリエーションの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の代表者会議においてルールの再確認をした。 施設使用方法に問題があったときには，当該施設の利用者に文書や電話で注意を促した。 使用報告書を毎月提出することをこれまでより徹底し，利用者からの意見や気付きをすぐに把握できるようにした。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
登録団体数（団体）	125.00	127.00	126.00	124.00	126.00
延べ利用回数（回）	9,713.00	9,682.00	9,729.00	9,730.00	9,730.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	使用できる施設の数が有限であることや，定期使用団体の他に臨時使用団体が使用すると施設はほぼ飽和状態であるため，成果は停滞している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	成果は上がっているため，現状を維持し，市民のスポーツ・レクリエーションの場の提供を行う。				

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	1,004	461	427	752	752
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,315	1,359	1,355	752	752
	一般財源	-311	-898	-928	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	554.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	2,271	0	0
トータルコスト		1,004	461	2,698	752	752

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名	夏休みプール開放事業		担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成25年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援		市民協働	
予算科目コード	01-100502-02 単独	根拠法令・条例等			

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
夏休み中の小学校プールの有効利用と児童の安全な遊び場の確保を目指し、昭和47年から子ども会や学校が中心となり学校プールの開放が開始された。しかし、全国でプール事故が相次ぐ中、監視業務を警備業認定業者に委託しなければ開放できなくなり、監視員の確保等の問題から、平成25年度から常総運動公園プールの開放を開始した。	夏休み期間中市内小学校児童に常総運動公園プールの利用券1人3回分を発行し、安全な活動場所を提供するとともに自主的活動を支援する。 [対象] 市立小学校全児童 [期間] 夏季休業期間と常総運動公園屋外プール延長期間（9月第2日曜日まで） [利用可能施設] 常総運動公園屋外プール及び室内温水プール
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
夏休み期間中の児童への安全な活動場所を提供するとともに、公共の場における公德心を養う。	
(参考) 基本事業の目指す姿	
市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
開園期間が延びたことにより、利用期日が拡大され利用率が向上する。	開園期間を維持し、利用拡大を目指す。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
プール利用者（人）	5,306.00	5,069.00	5,461.00	5,880.00	5,900.00
市内小学校児童数（人）	4,174.00	4,177.00	4,205.00	4,250.00	4,300.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	子どもたちの夏休みの過ごし方は多様化してきており、参加者の増加は難しい。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	利用可能施設を増やすことにより、参加者の増加を目指す。				

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	971	948	907	1,076	1,076
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	971	948	907	1,076	1,076
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	15.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	62	0	0
トータルコスト		971	948	969	1,076	1,076

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名	スポーツフェスティバル開催事業		担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成28年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援		市民協働	事業協力
予算科目コード	01-100501-12 単独	根拠法令・条例等			

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>平成22年度から平成27年度まで、3つの事業（健康福祉まつり・スポーツフェスティバル・老人スポーツ大会）を統合し、「健康スポーツフェスティバル」を開催していたが、地域福祉への市民への周知と啓発方法としての成果が期待できない、高齢者が参加を希望する種目が同時時間帯に重なり参加しづらい等の理由で、平成28年度から、老人スポーツ大会、スポーツフェスティバルが単独開催となり、健康福祉まつりは平成27年度をもって終了した。</p>	<p>10月の第4週の日曜日に、常総運動公園で実施</p> <p>【イベント内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スポーツコーナー <ul style="list-style-type: none"> 小・中学校対校親善リレー、小学生ラグビー体験（7人制ラグビー元女子日本代表選手が指導）、輪投げ、キックターゲット、グラウンドゴルフ、ノルディックウォーキング体験、歩け歩け大会、サイクル20km・6kmトライアル、かつ飛ばせホームラン！、スポーツ少年団交流大会（三色・五色綱引き）、コンピュータ健康測定、プール無料開放 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> 模擬店、フリーマーケット、ミニSL乗車
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じてスポーツの楽しさを体験する。 ・若年層から高齢者層まで世代を超えた交流及びスポーツや健康づくりの機会を提供し、地域で誰もが安心して暮らせるよう健康増進を図る。 ・多くの市民の健康づくりに対する意識の向上を図る。 	
(参考) 基本事業の目指す姿	
<p>市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
「健康スポーツフェスティバル」の事業構成は、スポーツ部門、福祉部門、老人スポーツ大会で実施してきたが、福祉分野での成果が今以上は期待できないため、福祉分野を平成27年度をもって終了した。平成28年度からは、スポーツ中心のフェスティバルとして運営する。	スポーツ部門の単独事業となり、多世代が楽しめるイベントを企画構成した。 既存の人気種目を残し、模擬店のほかにフリーマーケットを復活させるなど集客に力を入れた。 また、体験コーナーは、スポーツ推進委員、スポーツサポーター、体育協会専門部の協力を得て実施し、参加者にスポーツの楽しさを伝えた。 イベントの規模としてかなり縮小されたため、テント・テーブル・イス等、市で用意できるものは使用した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
来場者数（人）	0.00	0.00	2,208.00	2,300.00	2,500.00
協力者数（人）	0.00	0.00	190.00	195.00	200.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	スポーツ部門のみの開催となったため、前年度と比較すると参加者の減少は否めない。今後、更に若年層から高齢者層まで世代を超えた交流やスポーツや健康づくりの機会を提供するイベントとして内容の充実を図り、成果の向上を図る。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	企業や体育協会の競技団体等とタイアップ等を検討し、合理的に実施する。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	0	0	330	836	1,136
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	836	0
	一般財源	0	0	330	0	1,136
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	744.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	3,050	0	0
トータルコスト		0	0	3,380	836	1,136